

医療安全全国共同行動 第1回全国フォーラム 挨拶

岡本浩二(厚生労働省大臣官房参事官)、山本修三(日本病院団体協議会議長)、
羽生田俊(日本医師会常任理事)、永池京子(日本看護協会常任理事)、
本間崇(日本臨床工学技士会常務理事)

2008年11月24日(月・祝)

【本間崇 日本臨床工学技士会常務理事】

日本臨床工学技士会で安全担当の理事をしております本間と申します。よろしくお願いたします。本日は、会長の川崎がみなさまにご挨拶を予定しておりましたが、私用で欠席させていただきまして、私が代読ということにさせていただきます。

本日、医療安全全国共同行動推進会議の主催の下、医療安全全国共同行動第1回全国フォーラムを迎えられたことは、当会として、大変喜ばしいことでございます。また、同時開催されております医療の質・安全学会第3回学術集会在盛会裏に開催されたこと、心よりお喜び申し上げます。

さて、今、医療において求められておりますものは、医療の安全と質の確保でございます。この命題をどのように解決するかということが、私たち医療従事者に課せられた大きな問題であると考えております。

医療現場では、高度な医療機器が導入され、大きな治療効果を上げておりますが、一方で医療機器の誤った操作や管理の不備による事故も発生しております。これらの事故に対し、医療機器の構造の見直しや操作者側の教育などの対策が取られており、一定の効果があるものの、依然として事故がなくなるのが現状であると認識しております。

平成19年4月に厚生労働省から改正医療法、医療安全関連通知が出され、医療機器を安全に使用するための指針として、医療機器の保守・点検が医療機関に義務づけられ、現在に至っております。今回、医療行為から発生する有害事象を低減させる働きかけとして、医療の質・安全学会が中心となって、平成20年5月から医療安全全国共同行動日本版100Kキャンペーンが展開される中、地域の中の他の病院や団体と協力させていただき、有害事象を低減させる取り組みとして、医療機器の操作、保守点検の専門職として輸液シリンジポンプ、人工呼吸器の有害事象を低減させるための基本的行動、医療機器の保守管理点検の適切な実施の提案をさせていただき、すでに参加登録病院で実施されております。

世界的に非常に厳しい経済状況の中で、我が国の医療事情も大変厳しいと考えております。この医療安全全国共同行動を日本の医療改革の位置づけとして、行政や国民のみなさま、ここにおられる先生方にいろいろお力添え、ご指導いただき、日本臨床工学技士会もがんばっていきたく思っておりますので、よろしくお願いたします。

本日、この医療安全全国共同行動全国フォーラムが盛会に終了し、国民にとって、また医療従事者にとって将来の明るい展望に繋がることを祈念しまして、挨拶させていただきます。

会長以下、当会もこの医療安全における事業の一環として、高い位置において事業を推進していく所存です。みなさまと一緒に、また、参加団体・協力団体とともにがんばっていきたく思いますので、よろしくお願いたします。本日はありがとうございます。